
 学 会 記 事

第 55 回新潟脳神経外科懇話会

日 時 平成 21 年 12 月 12 日 (土)
 午前 10 時～午後 3 時
 会 場 新潟グランドホテル
 5 階 常磐の間

一 般 演 題
1 視神経管を貫通して頭蓋内に到達した穿通性眼外傷の 1 例

近 貴志・小倉 良介・田村 哲郎
 福島 淳志*・土田 宏嗣*・尾山 徳秀**
 県立中央病院脳神経外科
 同 眼科*
 新潟大学医歯学総合病院眼科**

視神経管を貫通してガラス先端が頭蓋内に到達した穿通性眼外傷の 1 例を経験したので報告する。

患児は 3 歳，女児。家で兄と遊んでいるときに，窓に頭から突っ込み，ガラス片の散乱した床に顔をぶつけて当院に搬送された。初診時患児は眼を開けず，顔面の打撲のほかには下眼瞼の擦過傷程度であったが，頭部 CT で左眼球を貫き頭蓋内に到達するガラス片を認めた。骨条件で検討すると，ガラス片は視神経管を通過して 2 つに折れ，方向を変えて頭蓋内に到達していたが，3D-CTA では内頸動脈，前大脳動脈には接していなかった。

左眼の視機能は保てないと判断し，眼科と協力して左眼球およびガラス片の摘出を行った。最初に当科で左前頭側頭開頭を行い，シルビウス裂を開いてガラス片の先端を確認した。周囲の血管損傷のないことを確かめ，さらに眼球摘出時にガラス片が動かないように保護した後，眼科医により

眼球摘出を行った。ガラス片は 2 つに折れており，外側は眼球とともに摘出できたが，内側は視神経管上壁の drilling を行い，頭蓋内から摘出した。術後義眼を挿入し，感染症状もなく経過し，約 10 日後に退院した。

本例の手術所見を供覧しつつ，頭蓋内に到達した穿通性眼外傷につき考察を加えて報告する。

2 診断に苦慮した右側頭骨好酸球性肉芽腫の 1 例

吉田 雄一・恩田 清・武田 茂樹
 山崎 一徳・宮川 照夫・檜前 薫
 新井 弘之

新潟脳外科病院脳神経外科

症例は 48 歳，男性。2009 年 6 月初めから右耳の上方がズキズキと痛みだし，精査を希望して当院を受診。右側頭部に圧痛あり。MRI では右側頭骨に T2 high の腫瘍性病変を認め，皮下組織への浸潤も示唆された。Gd によりこの病変は増強され，周囲の硬膜も広く増強された。頭部単純 X 線では右側頭骨に辺縁不明瞭な骨融解像を認めた。血管撮影では右中硬膜動脈より栄養される腫瘍陰影がみられた。骨シンチおよび Ga シンチでは右側頭骨に RI 集積を認めた。腫瘍マーカー，血液性化学検査では異常を認めなかった。原発あるいは転移性の悪性腫瘍を疑い，摘出術を施行した。腫瘍は骨を融解するように発育し，腫瘍と接する骨膜・側頭筋にも浸潤しており，浸潤部分を切除した。骨腫瘍の辺縁に十分な margin をとって開頭，骨片を摘出し，腫瘍と接する硬膜も摘出した。硬膜内への浸潤はみられなかった。組織像は S-100 陽性の組織球性細胞が増殖し，間質には単核球・リンパ球・形質細胞の浸潤がみられ，Langerhans cell histiocytosis と診断した。

【考察】好酸球性肉芽腫は Langerhans cell histiocytosis に属する良性腫瘍で，若年者に多い。26 例を分析した報告によると，年齢は 18 カ月～49 歳で，70% は 20 歳未満であった (Rawlings et al.)。単純 X 線では境界明瞭な骨透亮像が特徴とされている。MRI 所見は，T1 で等信号，T2 で高信号を示し，造影 MRI での硬膜の増強効果は腫